

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。



バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

『プロスポーツ選手の選手寿命』

冬季オリンピックが開催された。旗手となったノルディックスキーマスター・ジャンプ男子の葛西紀明選手は、平昌大会で冬季五輪史上最多8度目の出場となる45歳の大大ベテラン。こんな長い期間をトッププロとして活躍するには、並大抵の努力ではないだろう。

ゴルフは、シニアツアーもあり息の長い活躍ができるスポーツであるが、ノルディックスキー・ジャンプでここまで長い選手生活を続けている葛西選手には、感動を覚える。

選手生命に終わりを告げる場合、大きく分けて二つあるのではないだろうか。

一つは、怪我による選手生命の終わり。そして、もう一つは、年齢からくる選手生命の終わりである。

ここで、幾つかのスポーツの平均選手寿命を紹介したい。平均選手寿命が突出しているのが約30年間活躍するボートレーサーである。技術がものをいう世界で、熟練した選手たちが多く活躍している。競馬選手は、およそ17年間。そして、プロ野球選手は約9年、サッカーは、約6年。さらにここ最近話題の相撲は、2015年にモンゴル力士のパイオニア、旭天鵬が40歳で土俵を務めたが、平均でいうと約6年しかないのである。

プロゴルフ事情に目を向けると、活躍年齢は幅広く、平均選手寿命はわからないが、かなり長寿のスポーツだ。国内女子ツアーでは毎週のように10代のアマチュア選手が優勝争いに顔をのぞかせる。パワーと勢い、そして怖さを知らない若手選手と、数多くの歴戦の知恵と経験、そして長年かけて培った技を持ったベテラン選手が、同じ舞台で勝負を繰り広げることができるのは、ゴルフならではの面白さである。

どのスポーツも平均選手寿命は延びていると聞く。それを助けるのは、科学の力による練習だったり、肉体のケア方法だったりするのだろう。しかし、それをやり続けるエネルギーやモチベーションの維持は、本人の努力以外にない。アマチュアでも、プロ選手でも、生涯現役とは言わないが、怪我で泣く泣くプレーができなくなるようなことだけにはならないでほしい。そう願っている。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。
高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。